

— 関西学院大学 —

2月5日 センター併用 英語

解答

[I]

A (ア) b (イ) c (ウ) b (エ) b (オ) c

B (1) c (2) c (3) a

C c, g, h

D リスニングはまた複数の段階が関わるので、あるひとつの行為というよりはひとつの過程のことを意味する。

[II]

A (1) a (2) b (3) b (4) c (5) d

B (ア) c (イ) c (ウ) b (エ) a (オ) c

C (1) b (2) b (3) d

[III]

A (1) b (2) b (3) d (4) c (5) a

(6) a (7) b (8) c

B b, c

C 人々が当時気付かなかったことは、これらの化学薬品が他の生物をも殺してしまうということであった。

[IV]

(1) b (2) d (3) b (4) b (5) d

(6) d (7) c (8) c (9) a (10) c

[V]

A (1) h-g [d-h-e-b-c-g-f-a] (2) d-e [g-d-f-b-h-e-c-a]

B Why is (the use of smartphones prohibited during classes)?

[VI]

(1) b (2) d (3) c (4) d (5) a

(6) a (7) d (8) c (9) d (10) a

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

解 説

- ・ 内容一致問題の正解となるものの解答根拠となる部分のみ示しておく。

〔 I 〕

C

- c 第 2 段落 1 文目、2 文目の内容と一致する。
- g 最終段落最終文の内容と一致する。
- h 第 1 段落および本文全体の内容と一致する。

〔 II 〕

C

- (1) 第 2 段落 4 文目を根拠に選択肢 b を選ぶ。
- (2) 第 2 段落 3 文目に記述があるが、選択肢 b 以外については言及されている。
- (3) 最終段落 2 文目や段落全体の内容から d が正解である。

〔 III 〕

B

- b 第 2 段落 2 文目の内容と一致する。
- c 第 3 段落 2 文目の内容と一致する。

〔 IV 〕

- (1) 直前の **welcome** は他動詞なので、その後ろには目的語になる(代)名詞が必要である。
a. **anywhere**, c. **anyhow**, d. **anyway** は全て副詞なので不適。一方、b. **anyone** は代名詞なので適切である。
- (2) 関係代名詞の非制限用法を問うている。接続詞 **and** を使って基盤になる英文を考えると以下のようになる。
Last month he mentioned an interesting book, and I now can't remember the title of it.
→最後の代名詞 **it** が関係代名詞 **which** に変化すると同時に、接続詞の **and** は削除され、**the title of which** が節頭に移動する。よって、d. **the title of which** が適切である。
- (3) **do nothing but +V** 原形「～してばかりいる」という慣用表現を問うていることに気がつけば、b. **but** が適切である。
- (4) 文構造と関係詞を問う問題。前置詞の後ろなので c. **which** と答えた方も多数いるかもしれない。しかしながら、英文の構造を十分に観察すると以下のようになっており、空所から **TV** までは名詞節となることに気づかねばならない。名詞節を導く関係代名詞は b. **what** のみである。

[S] A large proportion [M] (of [(what) people watch on English language TV]) [V] is [M] (of American origin).

「英語圏のテレビで人々が見るものの大部分はアメリカ産である」

- (5) 空所の後ろに **choosing John** と動名詞が来ていることに注目すると、空所には前置詞が入らねばならない。a. **In case** は接続詞なのでここでは不適。b. **Instead**, c. **However** はいずれも副詞なので不適。d. **Rather than** の **than** は接続詞と前置詞のどちらの品詞にもなれる。ここでは、前置詞と考えるとその後ろが動名詞で続いても問題ない。よって、**d** が適切である。
- (6) **be used to Ving** 「～することに慣れている」という動名詞構文の問題。その形になっているのは **d. is used to getting** である。
- (7) **if it had not been for** ～ 「もし～がなかったならば」という慣用表現を問うている。よって、**c. if it had not been** が適切である。
- (8) **on** には「～に関して、～に関する」という関連を表す意味がある。よって、**c. on** が適切である。
- (9) 定番イディオム **get along with** ～ 「～と仲良くやっていく」を問うている。a. **along** が適切である。
- (10) 結果構文の **such** ～ **that S V ...**を問うている。よって、**c. such a** が適切である。

〔V〕

A

- (1) **had better** の後ろであるので、動詞の原形が来ること、「～に備えて」は **in case of** ～で表すこと、などに注意して並べ替える。完成した形は次の通りである。

We had better (consider what to do in case of an) emergency.

- (2) 和訳だと結果を表す形に近くなっているが、結果を表す **so that** 構文が問われている。「補う」は **make up for** であるので、合わせて完成させた形は次の通りである。

Let's work together (so that we can make up for each) other's weaknesses.

B

「禁止する」で **prohibit** が使えただろうか。解答例では **the use** を主語としているが、**prohibit O from Ving** を知っていれば、以下のようにも書けるだろう。ただし、**Why is** があらかじめ明記されているので、強調構文の疑問文にする必要があるので、若干ややこしくなるかもしれない。

Why is (it that we are prohibited from using smartphones during classes)?

仮に **prohibit** を使うことが不安であれば、以下のように切り抜けることも可能である。

Why is (it that we are not allowed to use smartphones during classes)?

smartphones や **classes** の前に **our** などの冠詞相当語句を付けることも可能だが、可算名詞の場合は、無冠詞の複数形で使うと無難な場合が多い、ということも覚えておこう。

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！